

# 拉致解決 家族が生きているうちに

## 蓮池薫さん 帰国から15年

北朝鮮が日本人の拉致を認めた日朝首脳会談から17日で15年。帰国した拉致被害者の一人、蓮池薫さん(59)が16日、新潟県柏崎市で朝日新聞のインタビューに応じた。「日本で待つ家族が生きているうちに被害者を帰さない」と解決の意味がなくなる。政府はいま動か

ないと手遅れになる」。北朝鮮がミサイル発射や核実験を繰り返す中、日本政府が拉致問題解決に向けた独自策を打ち出すよう求めた。

▼2面「日朝首脳会談15年、27面」家族を思う 国連の北朝鮮制裁決議が採択されるなど「今は国際的に圧力の局面にある」。蓮

**北朝鮮による拉致**  
1970〜80年代、日本人の失踪が相次いだ。02年9月17日の日朝首脳会談で金正日(キム・ジョンイル)総書記が拉致を認め謝罪。

翌月15日に蓮池薫さんら被害者5人が帰国し、04年には蓮池さんの家族らも帰国した。日本政府は17人を拉致被害者と認定しているが北朝鮮は5人以外は「死亡」「未入境」と主張している。



池さんはそうみる一方で、「いつかは対話の局面になる。その時に備え、日本は水面下で拉致問題解決を求める姿勢を伝える努力が必要」と語った。「安倍晋三首相には交渉の先頭に立つてほしい。核やミサイルの問題ではトランプ米大統領のメッセージを直接伝えつつ、拉致問題を持ちかけたかどうか。拉致問題解決な

くして国交正常化も経済協力もない、この姿勢を強調すべきだ」と提言した。他方で、被害者や家族の高齢化が進む。「拉致は国

家問題であると同時に家族の問題。家族が再会して一緒に暮らすためには、いまが切羽つまったぎりぎりの時期にある」と語った。蓮池さんは大学3年だった1978年に拉致され、24年後に45歳で帰国。現在は新潟産業大准教授として、北朝鮮で身につけた韓

国語を教える。自身で翻訳や講演に取り組み。ともに拉致され帰国した妻祐木子さん(61)や両親らと郷里の柏崎市で暮らす。「帰国後、自分の才能を生かして新しい人生を精力的に生きる。そんな夢を実現するには多くの時間がある」と述べた。(渥美好司、編集委員・北野隆二)

デジタル版に動画